



東北支部年報

第 25 号

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉 1-5-15 日本生命仙台勾当台南ビル4F

TEL 022-265-3404

FAX 022-265-3405

E-mail: aij-tohoku@nth.biglobe.ne.jp

http://news-sv.aij.or.jp/tohoku/index.htm

巻頭言

道州制時代の学会支部

東北支部長

近江 隆

建築学会東北支部の支部長を引き受けて早や1年が過ぎようとしている。ほぼ20年ぶりに支部活動に復帰してみると、りっぱな事務所や「みちのくの風」という新しい取り組みができていて、時間の経過を感じられる反面、当時と何ら変わらない組織形態や取り組みも残っている。世の中が大きく変わっていくことに対して、学会は変わらぬ不変の真理を扱う団体であるとの態度を示すことも必要であるが、世の中の変化に対して人々や社会がとるべき未来の方向を示すことも求められる。少子高齢化社会や人口減少時代に突入し、東北地方の地域社会や建築活動はどうなるのか。環境問題への対応が新しい技術革新を生み出すように、経済の低成長や人口減少や高齢化といった、一見して負の要素と考えられるものの増大に一喜一憂することなく、問題解決への新たな取り組みを期待したいものである。

ところで、新聞の紙面に、国の経済財政諮問会議専門調査会の報告(日本21世紀ビジョン)が紹介されていた。それを見ると、25年後の我が国は人口が1千万人減少し、5人に1人が75歳以上の高齢者となり、実質国内生産(GDP)の成長率は1%半ばに止まり、人口が30年間で20%以上も減少する地域は集約再編やむなしとのことである。そして、道州制の実現を求めている。このことは国土政策の基本を成してきた「均衡ある国土の発展」を放棄することを意味している。道州制論議は既にあり、私も支部長を引き受けた時点で、将来の支部のあり方をこの道州制と絡めて考える必要性を痛感していた。というのは、いろいろな専

門学会の支部づくりが単に数を増やす方向だけでよいのか疑問だからである。人口が集中している首都圏を基本に様々に分化する団体と、人口(会員)の少ない、しかも、重複して各種団体の支部員としての活動を期待される地方組織とでは、状況が異なるのである。多くの組織の支部運営に人材のエネルギーが使われ、創造的な活動への参加が少なくなるとすると、東北の未来は暗くなる。

全国組織である小さな学会の運営に携わった経験からすると、建築学会東北支部は小さな学会の全国組織規模に相当する。600人の会員組織で年間予算が1千万円以下の全国組織が年3冊の書店販売される学会誌(論文集)を発行していることを考えると、本支部の活動をもう一度見直してみる必要ありと感じたのである。会員1千人以上を有する本支部は、他の小学会等に門戸を開放し、東北地方に必要な建築及び都市に関する学問的知見を集約・発表できる場として、オープン学会を目指したらどうだろうか。今年の「みちのくの風・山形」では、従来の研究発表だけでなく招待講演を行うことになっている。できれば、建築学会会員以外の講演者が得られればよかったのだが、東北という地域を超えて講演者が選ばれたことは一歩前進といえよう。本支部においては、多くの他学会に属する建築及び都市に関わる研究者の交流するオープン学会への歩みが、道州制時代の本支部の向かうべき方向ではないかと考えるのである。

もくじ

○ 巻頭言	○ 第15回東北建築作品発表会の報告	7	○ 研究部会活動報告	12
○ 道州制時代の学会支部	○ 第24回東北建築賞表彰式及び展示会報告	8	○ 支所だより	15
○ 企画記事	○ 日本建築学会「作品選集2005」東北支部審査報告	8	○ 常議員会から	17
○ 04 建築文化週間事業	○ 2004年度設計競技東北支部審査報告	9	○ 支部役員名簿	18
○ 04 親と子の建築講座	○ 2004年度東北支部研究報告会	10	○ 2004年度事業報告	19
○ 第25回東北建築賞(作品賞)選考報告	○ 2004年度日本建築学会東北支部総会報告	11	○ 2005年度事業計画(案)	21

「みちのくの風 2004 福島」開催報告

常議員（総務企画担当） 飯藤 将之

支部研究発表会を、学術・技術・芸術を包含した場へと発展させ、学会以外の協会と協賛しながら学会の活動を市民に還元してゆくことを主なねらいとした「みちのくの風」も3回目となり、2004年度は6月12、13日の2日間コラッセふくしまを会場に開催された。

学術に関しては、第67回東北支部研究報告会が開催され、環境系45題、計画系47題、構造系44題の計136題の発表と討論がなされた。発表論文は、日本建築学会東北支部研究報告集第67号（2分冊）として刊行した。

市民との交流に関しては、2002盛岡「子どものための空間」、2003青森「雪国まちづくり - 冬期バリアフリーをめぐって - 」に引き続き、2004福島では「少子・高齢化社会における地域社会と居住空間」をテーマにパネル討論が行われた。コーディネーターは福島大学鈴木浩教授である。初日の午後（13:30～15:00）の開催で、パネル討論前の秋山宏学会長の基調講演が延びたものの、パネリスト（東北大学石坂公一助教授、飯舘村菅野典雄村長、福島市落合省都市政策部長）から、過疎を受け止めた政策、豊かなライフスタイル、都心居住政策の難しさなどに関して問題提起があり、地方都市や地域社会の今後のあり方に関する意見が交換された。参加者は約120名であった。

技術・芸術に関しては、パネル討論に引き続き（15:10～17:00）第24回東北建築賞表彰式と受賞記念講演が行われた。参加者は約100名であった。作品賞6点と作品奨励賞2点であった。上記8作品のパネルを2日間コラッセふくしま1階ホールに展示し、来館者に自由に見ていただいた。

初日18:00から福島ビューホテルに会場を移し、懇親会を開催した。研究発表者、東北建築賞受賞者、地元団体関係者、支所・支部関係者ら66名の出席があり、親交を深めた。

2日間にわたる「みちのくの風」の開催にあたって福島支所（福島県土木部建築領域）の全面的な協力をいただいた。更に、開催に尽力いただいた（社）日本建築家協会東北支部をはじめとする関係各位に御礼を申し上げます。

「やまがたレトロ館めぐり」

山形支所事務局 相馬 妙子

平成16年10月3日（日）山形市内において2004親と子の建築講座「やまがたレトロ館めぐり」を開催しました。山形市内には、普段何気なく通っている街中に歴史的建築物が数多く残っており、これらを親子で歩いて見学し、建築文化に興味を持ってもらうことを目的として今回の講座を開催しました。

今回は文翔館をスタートし、周辺のレトロ館と合わせて9つの建築物を巡るルートを設定しました。

文翔館は大正5年から昭和50年までの間、山形県の県庁舎と県会議事堂として使用されていた建築物で、現在は国の重要文化財に指定され、県郷土館として公開されています。知事室、正庁等を使用当時の状況説明を交えながら館内を見学し、天井に施された繊細な左官装飾や、精巧に復元された床材には、参加した子供たちだけでなく大人の参加者の方々にも建築の奥深さを実感してもらえたようでした。

4番目に見学したまるはち新聞本店は、大正初期に建てられた蔵座敷と荷蔵が飲食店に改修された建物で、見学に合わせて蔵座敷で昼食をとり、休日に親子そろってのランチも楽しんでいただけたと思います。

当日はあいにくの雨であったにもかかわらず、参加者の皆様からは「来年も参加したい」「身近にある歴史的建築物の奥深さを感じることができた」などの声を多くいただき、子供たちも笑顔で帰ってもらえたことが大変印象的でした。今回も、子供達にとっては建物の細部を見るという機会となり、大人の参加者にとっても歴史的建築物の保存・活用に対する意識を持つ良いきっかけとなる講座を開催できたと感じています。



親と子の建築講座 「かたちとつよさ」

日本大学工学部 倉田 光春

本講座では、10月17日に郡山市ふれあい科学館において、小学生を対象に、「かたち」と「つよさ」について、スライド・模型展示・紙を使用した模型作り、そして実際に筋交いを紙で作成したものによる強度ゲームを企画していた。しかし、当日に集まった人数が少数だったことにより、急遽、場所を展望スペースに変更し、小学生を対称に、模型展示・紙模型を実際に作成してもらうことにした。展示模型の説明、紙模型の作成手順は倉田教授・研究室所属の学生がつき説明・手伝いなどを行うことで補佐した。模型作成では、親子で助け合う、まさに主催者の意図するところが理解されたと思われる。人が生活するための建築、その建築構造に潜む「かたち」と「つよさ」、そして構造的な美しさを体験することを通じて、親子の関係を深め、子供たちに建築に対する親しみを与えることができたと思います。また、これからもこのような講座の開催を通じて、子供たちに建築に対する親しみを持ってもらおうとともに、工学のおもしろさを伝えていきたい。



家の模型を作ろう

古跡 昭彦 (青森県立弘前工業高等学校)

平成16年7月25日、弘前工業高等学校のCAD室と実習室を会場として、総勢25名の参加者で、親と子の建築講座「家の模型を作ろう」を開催しました。この講座は、CADシステムを使って、今話題の多い旧官立弘前高校外人教師館の建物を外観パースや内部パースを表現させてみて、3次元空間の疑似体験をし、その後、その模型を作り、イメージ通りとなっているかを体感してもらうことを目標としました。

最初に、この建物が、道路拡張工事で壊される運命であったものが、価値を見出してくれた人達の運動によって移築され、現在、弘前大学の敷地内に保存されたことを説明し、合わせてこの建物の特徴も説明しました。そして、CADシステム上で透視図や内部空間のウォークスルーで3次元体験してもらい、いよいよ模型作りとなりました。説明の指示に従って、スチレンボードをカットして、接着剤でくっつけていき、苦労しながらも建物を完成させました。企画段階では、難しく大変時間もかかるのではと懸念もしていましたが、親子が協力しあってももの見事に完成させることができました。製作中は真剣そのもので、完成した時には感動ものでした。



この旧官立弘前高校外人教師館の建物は、移築後、弘前の夜にライトアップされて注目を浴びたり、弘前城雪灯籠まつりのメイン会場の大雪像に採用され、弘前の冬を彩ったり、国の登録文化財になるなど、大きな話題を提供しました。自らの手で製作された模型を持ち帰った親子の参加者達は、達成感によって記憶の中にしっかりと焼き付き、いつまでも心に残るものと確信しています。特に未来を担う子ども達の意識の中に、脈々と生きていてほしいものだと願っています。



コンピューターによる住宅モデル作成

江川 嘉幸(山形県立産業技術短期大学校)

平成 16 年 10 月 24 日に、山形県立産業技術短期大学校において、親と子の建築講座「コンピューターによる住宅モデル作成」を開催しました。この講座は、IT 世代の子供たちに建築にコンピューターがどのように使われているか体験してもらい建築に興味を持ってもらうことを目的としています。内容は、建築 3 次元 CAD (GRAPHISOFT Ver6.5) により、親子で自由な形状の小住宅を入力し、内・外観パースやウォークスルーアニメーションを作成するというものです。

講座では、操作手順書に沿って、学生アシスタントが補助しながら親子で CAD を操作するという手法で入力を進めました。親子で仲良く住宅のデザインを決めてもらいたいところでしたが、それぞれの好み合わないために、途中から親子別々の CAD を操作するという場面もありました。参加者の作品は講座風景の写真データとともに CD-ROM に保存して配布させていただきました。

参加した子どもたちにとっては、これまで受動的だった建築が、「自分で考え自分でつくれる」可能性と「自分の考えを発信できる」可能性を体験してもらうよい機会になったと思います。



講座風景

八幡町まちたんけんワークショップ

- 歴史と文化を生かしたまちづくりを考えよう -

渋谷 セツコ (建築と子供たちネットワーク仙台)

平成 16 年 7 月 28 日 (水)、仙台での親と子の建築講座 (主催: 日本建築学会東北支部・仙台市) には、ポラロイドカメラを使ってまちを探検し、あちこちでキラリと光る「まちの宝物」や気になるものを探そうと、景観サポーターや市内の小学生など 39 名が参加しました。八幡町は作並街道沿いで仙台北下の西の玄関口にあたり、国宝の大崎八幡宮を中心に栄えた門前町です。最近では国道 48 号線を中心として新しい建物が増えて街並みが大きく変化し、焼肉店の進出や天賞の移転問題があり、市民の間で議論をかもしている所でもあります。

参加者は 2 つのグループに分かれて、四ッ谷用水跡、辻標などを見ながら石切町の小梨石材店で秋保石を割る体験をし、大修理が終わったばかりの大崎八幡宮で宮司さんからお話を聞いて美しい工芸品のような神社の写真を撮りました。また、庄子屋醤油店と天賞の醸造所では地下水の話聞き、天賞では実際においしい仕込み水をたっぷり味わいました。最後にみずみずしい天賞苑の庭で休憩しながら、会場の八幡コミセンに戻り、3 時間半にもわたるまちたんけんを終えました。

今年も酷暑と言われる中のまちたんけんでしたが、もどってからはすぐ、美味しいおにぎりと新鮮なキュウリを味噌で食べて元気を回復し、報告書づくりに集中しました。最後は見つけてきた「まちの宝」や気になるもの、「まちの宝」を生かしたまちづくりのアイデアをグループ毎に発表しあい、かけつけた副市長さんに報告書を提出しました。さすがに歴史的なまちの宝がたくさんあるまち、出てきたアイデアもいっぱいありましたが、中でも子供たちのグループから出た「植物に覆われた家を見つけて、こういう家でまちがいっぱいになればいい。」というアイデアや、天賞の工場を見て考えたアイデア「子供が法律違反をしないように、子供用のお酒があったらいい。」は、大人たちを楽しく唸らせました。



天賞の仕込み蔵のなかを見学

第25回 東北建築賞(作品賞)選考報告

選考委員長 沼野 夏生

2004年度(第25回)東北建築賞の受賞作品が決定した。表彰式は6月11日のみちのくの風2005山形で多数の参加者のもとに開催され、受賞者には賞状および賞杯(作品賞のみ)が授与される。また、例年どおり各受賞作品は東北建築作品展として東北6県の支所などでパネルによる巡回展示が行われる予定である。

1. 応募作品数

- ・小規模建築物部門： 12点
- ・一般建築物部門： 25点
- 合計： 37点

2. 選考経過

(1) 事前打合せ(2004年9月10日、日本建築学会東北支部会議室)

応募された作品の数とその内訳を確認した上、作品発表会の運営方法や選考基準などについて事前審議を行った。

(2) 東北建築作品発表会、第1次審査(2004年10月2日、仙台メディアテーク7階スタジオシアター、会議室b)

第15回東北建築作品発表会は午前9時50分から午後6時20分までの間に全37作品の発表が審査員の司会により滞りなく終了した。作品数が多いため長時間にわたるゆとりのない日程にならざるを得なかったが、時間厳守で効果的なプレゼンテーションをしていただいた発表者に敬意を表したい。その後、発表作品の中から現地審査を行うものを選定することを目的として、第1次審査に入った。まず、あらためて選考基準などを確認した後、推薦数の上限を定めて第1回目の投票を行った。その結果、小規模建築物部門では得票順に上位を占めた2作品に加えて、同点の5作品から第2次投票で選ばれた3作品、計5点を選定した。一般建築物部門では8票以上を獲得した5作品に加え、議論の上5票以上獲得した4作品を追加し、計9点を選定した。こうして14作品(小規模建築物部門5点、一般建築物部門9点)が、全会一致で承認され、現地審査へ進むこととなった。なお、現地審査は1作品につき2名以上の審査員が実施することを確認し、選定された14作品について各審査員の分担を決めた。

(3) 現地審査

審査対象となった14作品の現地審査は、各審査委員が訪問先と日程調整を行いながら、10月から12月にかけて鋭意実施された。

(4) 第2次審査(2005年1月22日、日本建築学会東北支部会議室)

本審査に先立って、各委員が現地審査報告として担当作品について自由に所感を述べ、それについて質疑応答を行った。その後、現地審査担当者によるABCの3段階での評価(記名、Aは東北建築賞に相応しい作品、Bは審議により

入選の可能性を持つ作品、Cは賞に及ばない作品)を行い、その上で各審査員による無記名投票とを行うこととした。投票は1人あたり小規模建築物部門を3点以内、一般建築物部門を5点以内推薦することにした。満票を得た3作品をはじめ、得票が多かった順にABC評価の結果とも照合しつつ慎重に審議した結果、作品賞6点、作品奨励賞2点を審査員全員一致で選定した。

3. 選考結果

作品賞 家業

- 【所在地】福島県南会津郡田島町
- 【設計監理】はりゅうウッドスタジオ
- 【施主】柏倉一博
- 【施工】(株)芳賀沼制作

作品賞 都市計画の家

- 【所在地】宮城県仙台市青葉区鷺ヶ森
- 【設計監理】近江 隆(東北大学都市分析学研究室)+芳賀沼整(はりゅうウッドスタジオ)
- 【施主】芳賀沼整
- 【施工】セルフビルド+設備(部分発注)

作品賞 杜の修道院

- 【所在地】宮城県仙台市
- 【設計監理】建築：針生承一建築研究所
構造：松本構造設計室
設備：(株)総合設備計画東北事務所
- 【施主】宗教法人オタワ愛徳修道女会
- 【施工】(株)銭高組東北支店

作品賞 三春交流館まほら

- 【所在地】福島県三春町
- 【設計監理】大高建築設計事務所(建築)、青木繁研究室(構造)、大瀧設備事務所(電気)、井上市市研究所(設備)、石井聖光(音響設計)、本杉省三(ホール舞台計画)、奥畑康夫(ホール照明計画)
- 【施主】三春町
- 【施工】大林組

作品賞 町立大畑中央保育所

- 【所在地】青森県下北郡大畑町
- 【設計監理】(株)フォレストシブプ一級建築士事務所
- 【施主】大畑町
- 【施工】建築・環境：(株)熊谷建設工業 電気：ハマダ電気 設備：菊池住設

作品賞 宮城県立がんセンター緩和ケア病棟

- 【所在地】宮城県名取市愛島塩手野田山47-1
- 【設計監理】藤木隆男建築研究所
- 【施主】宮城県
- 【施工】佐藤・相澤特定建設共同企業体

作品奨励賞 静戸の家

【所在地】福島県伊達郡梁川町桜町 114 番地

【設計監理】田中直樹設計室

【施主】田中薫、田中直樹

【施工】菅野建設株式会社

作品奨励賞 比内町立扇田小学校

【所在地】秋田県北秋田郡比内町扇田字白砂 131

【設計監理】建築：深瀬啓智+（株）蔵王建築設計事務所

構造：（株）S・D・G

機械：（株）仙台総合設備計画

【施主】比内町

【施工】校舎：イトウ・平和建設工事共同企業体
（建築工事）

奥羽・米代建設工事共同企業体（電気設備）

大館桂・明祝建設工事共同企業体（機械設備）

屋外運動場：（株）イトウ

プール：平和建設（株）

グラウンド：（株）武田組

4. 講評

今回は 37 作品の応募があり、前年のほぼ 2 倍となった。決して順風とはいえない環境にある東北の建築界であるだけに、時代性を備えた意欲的な作品を積極的に世に問うた応募者各位に、あらためて敬意を表したい。当然ながら審査は難航したが、審査員にとってはうれしい悲鳴とも言うべきものであった。内容もますます多様化し、いわば定番ともいえる小規模部門の住宅、一般部門の公共建築はもとより、さまざまな用途、規模の作品が競い合った。時代を反映して、建築のリノベーションの試み、都市環境や街並みに対する独自の提案なども目にとまった。現地審査はさんだ 2 回の審査により賞の帰趨は決定したが、惜しくも受賞に至らなかった作品にも、特筆すべき内容を備えたものが少なくなく、審査員の一部から高い評価を得たものもあった。次年度以降も、多くの方々からさらに広範な作品が応募されることを期待したい。なお、以下に述べられる入選作品の個別講評は、現地審査を担当した審査員が分担執筆したものを審査委員長が取りまとめたものである。

【作品賞】

家業

山間の町の駅前に建つ住居併用の蕎麦屋である。何といってもその特徴は外装にある。在来工法による木造であるが、ビニルシートをコーティングした和紙を軸組みの外側および内側に貼っている。これが外壁を構成し、まさに木と紙の建築となっている。この紙の壁は光を透過して内部に導き、やわらかく穏やかな空間を生んでいる。またこの壁は中空層をもつことにより断熱性を確保している。防犯性能が気になる場所であるが縦格子等で対応しており、この点もぬかりない。まさに“コロブスの卵”ともいべき手法が駆使され、伝統木造建築に新機軸を拓いたとい

えよう。換気ダクトの収まり等、気になる箇所がないではないが、そうした点を補って余りある可能性をもつものとして高く評価される。

都市計画の家

都市における住み方は様々にある。このクライアントは三つの都市を巡りながら三ヶ所で生活（家庭、仕事、研究）をしている。ひとつの住まいで生活の全てを満たす必要がない。一カ所に定住するのではなく移り住んでゆくことによって一つひとつの住まいの形態が変わる。この家では樹脂コーティングした和紙一枚が内部と外部を区画する。一年半を経て建物に古びた様子はない。近代建築は機能性、利便性を徹底して追及してきた。その機能性や利便性の一部をはずしてしまうと住まいの形態は全くといってよいほど変わってしまう。それで充分住んでゆくことができる。この家は新しい住まい方を提起し、都市との関わり方の新しい形を生み出している。

杜の修道院

「杜の修道院」は市街地から離れた閑静な場所に位置し、周囲を樹木に囲まれたやや小高い丘の上に建っている。修道女らの共同生活と修行の場としての特殊性を、設計者は中庭を囲んだ回廊型の構成にまとめ上げている。共有すべき領域とプライベートな領域を垂直方向に分けたゾーニングは明快であり、木やガラスを多用した外観は、周囲の樹木群との巧みなマッチングとも相まって、とかく暗くて閉鎖的な印象にとらわれがちな修道院を、控えめながらも明るく開放的なものに変えている。惜しむらくは当初の計画にあったという池が、芝の中庭に変じてしまったことであろうか。しかし、現出した杜の中の建物は、修道院の一つの新しい姿としてのありようを見事に表現している。

三春交流会館まほら

三春町の街作りに対し 15 年以上の歳月に渡り熱心に取り組続けた設計者が、その経験を十分に発揮し町の方々と施設のプロプログラムまでも話し合い、この町の身の丈にあった施設を実現している。景観形成においても極めて周辺との一体感が強く、長い歳月をかけ十分にこの街の景観について熟考された上でまとめ上げられた事が感じられた。フライなどのこの街のスケール感と調和しがたい機能も、街の地形を十分検討に入れ配置・形状を熟考した事でどの方向から見ても違和感のないデザインにまとめ上げられている。機能的な面に関しても、独自の可変残響調整装置を考案しデザインとの整合性を高め、維持管理の負担を削減するなど完成度の高い作品であった。

町立大畑中央保育所

大畑町立中央保育所は、人口減少や中心市街地の空洞化などの地方都市の抱える諸問題に対して、住民との対話を尊重しながら設計・計画された「地域の核としての保育所」である。保育所は乳児・幼児が主役であり、子供の目線に立った設計が必要なのはいうまでもないが、本作品のようにそれを着実に実施できている事例はそう多くない。地域資源循環としての地場産材の活用、快適な温熱環境の確保、太陽光・太陽熱の利用や省エネルギー性など、眼に見

えにくい機能性にも十分に配慮した保育空間は、子供の人間形成のみならず環境意識を涵養するのにも十分役立つだろう。連続した勾配屋根の切り取るスカイラインは周囲環境とほどよく融合しており、総合的にみて東北建築賞作品賞にふさわしいと判断した。

宮城県立がんセンター緩和ケア病棟

「平屋・片廊下・中庭型」は病院計画としてはチャレンジだ。しかし、緩和ケア病棟をより住宅的な空間として作ろうという意志が、正しく成果をあげている作品である。高台の地勢や大きな桜などの既存の木々を生かして構成された中庭は、適切なスケール感と、デッキやパーゴラなど行き届いたディテールによって支えられ、眺めるだけの庭ではなく、患者が身を置いて時を過ごす空間として、強い説得力を持っている。

大谷石や珪藻土など質感の高い材料で仕上げられた個室は、畳ユニットなど充実したしつらえである。また、よい椅子がおかれた廊下の談話コーナー、バスやタクシーが行き交う本館前庭を眺める連絡ブリッジ、そして「お見送り」のための車寄せなど、緩和ケア病棟なればこそその社会とのつながりかたが追求されている。

【作品奨励賞】

静戸の家

南東北の太平洋に近い小都市近郊に、建築家の自邸兼アトリエとして計画されている。作者はまず生まれ育った地域の建築の伝統をサーベイした後、パッシブソーラーをコンセプトに据え平、断面計画を行った。寒暖に左右されないRCの箱を中央に配し、その緩衝領域として縁側、廊下、小屋裏といわば平、断面ともダブルスキンでの対応を試みている。またポリカの断熱戸や住宅用サッシでのシャープな納まり、溝型鋼の雨樋、残土利用の築山など随所に作者の創意工夫が見られる真摯な作品である。しかしながら肝心の、南全面開口部の日射や熱量の出入りについて、もうひと押しの探求が欲しかった。自邸でもあり住んでいくなかでの試行錯誤に期待したい。

比内町立扇田小学校

比内町の中心部に立地し、町のコミュニティ機能を併せ持った小学校である。着色された木材と同系色のタイル張りに、それらと対照的な打ち放しコンクリートが気品のある美しさを醸している。同一敷地に建替えられ、敷地内の巨木を残すという制約があったため、配置計画は困難であったと考えられるが、音楽堂、多目的ホール、図書室、コンピュータ室が巨木と玄関部分の曲面を生かして配置され、魅力ある建築となった。また階段部分を遊び場にするなど、新しい提案もある。木材を多用する意図があり、音楽堂のドーム小屋組では成功しているが、アリーナの大断面集成材は視覚的工夫が欲しかった。また、教室への日射を遮る手段が十分でなく、運動場と密接すぎるのも気になった。

2004年（第25回）東北建築賞作品賞選考委員会

委員長 沼野 夏生 地方計画部会（東北工業大学）

委員

田中 礼治 構造部会（東北工業大学）

最知 正芳 施工部会（東北工業大学）

山田 寛次 材料部会（秋田県立大学）

本江 正茂 建築計画部会（宮城大学）

安原 盛彦 歴史意匠部会（秋田県立大学）

本間 義規 環境工学部会（岩手県立大学）

武沢 秀一 建築デザイン教育部会（東北文化学園大学）

二宮 正一 （社）日本建築家協会東北支部

（二宮設計事務所）

中澤 雅宏 （社）青森県建築士事務所協会

（八州建築設計事務所）

原田 和幸 常議員（国土交通省東北地方整備局営繕部

建築課）



<作品賞> 「家業」



<作品賞> 「都市計画の家」



<作品賞> 「杜の修道院」



<作品奨励賞> 「静戸の家」



<作品賞> 「三春交流館まほら」



<作品奨励賞> 「比内町立扇田小学校」

15 回東北建築作品発表会報告

常議員(社会・文化) 原田 和幸

<作品賞> 「町立大畑中央保育所」



<作品賞> 「宮城県立がんセンター緩和ケア病棟」

第15回東北建築作品発表会は、平成16年10月2日(土)、仙台市メディアテーク7階のスタジオシアターにて開催された。発表作品は小規模建築部門12点、一般建築物部門25点の計37点で、第25回東北建築作品賞へ応募のすべての作品について、発表が行われた。

作品数の増加に伴い1作品あたり、発表9分、質疑応答等2分で、前回(第14回)より時間を短縮した上、開始時間を前倒しても、終了時間が18時をまわる程であった。

支部長挨拶、沼野夏生選考委員長の発表にあたっての注意の後、11名の選考委員輪番の司会で、設計・企画を行った各応募者代表の説明、質疑応答により発表会は進行した。丁寧な説明や若手の緊張気味な説明、熱心な質疑応答が発表会を盛り上げ、延べ150名ほどが来場され盛況のうちに終わりを迎えられた。

当日発表終了後に別室にて第25回東北建築作品賞選考委員会第1次審査が行われ、事前資料や当日のプレゼンテーションを基に議論なされ、現地調査対象作品14点が選考されている。

本会開催にあたっては、(社)日本建築家協会東北支部、(社)建築士事務所協会(東北各県)(社)建築士会(東

北各県) (社)福島県建築設計協会、(社)東北建設業協会
連合会のご後援を頂いていることを報告に加えさせて頂き
たい。

第24回東北建築賞表彰式及び展示会報告

常議員(社会・文化)原田 和幸

第24回東北建築賞表彰式は、「みちのくの風2004 福島」
の1日目、平成16年6月12日(土)に、福島駅西口の複
合施設であるコラッセふくしま内の多目的ホールにて、パ
ネルディスカッション「少子・高齢社会における地域社会
と居住空間」につづき、開催された。

作品賞6点、作品奨励賞2点である。若井正一審査委員長
より選考経過報告と講評が行われ、受賞者各者に近江隆支
部長から賞状、賞杯が贈られた。

これに引き続き、作品賞及び作品奨励賞受賞の8作品につ
いて、各受賞者によりスライドを用いた作品紹介が行われ
た。各作品とも見所が多く持ち時間12分でその良さを十分
伝えようと熱のこもった説明が続いた。大きめの会場を割
り当てていたが立ち見ができる程の盛況であった。

また、第24回東北建築賞受賞作品パネル展示会は、「みち
のくの風2004 福島」開催中、同会場の1階アトリウムで開
かれた。

最後となってしまったが、本表彰式、講演会、パネル展示
会は、ご後援の各位、委員長はじめ各選考委員、福島支所
及び支部の関係者・スタッフ・そして、受賞者並びに作品
応募者の方々の準備と協力により開催することができたも
のであり、各位にこの場を借りて深く感謝申し上げたい。

「作品選集2005」東北支部審査報告

元倉 眞琴

2004年6月24日に、東北支部にて最初の選考審査が部会
委員全員の出席のもとで行われた。委員は、部会長の元倉眞
琴(東北芸術工科大学)、渡辺力(渡辺設計事務所)、御供
政敏(エムアイティ建築研究所)、阿部仁史(東北大学)、
込山敦司(秋田県立大学)、陽田秀夫(邑建築事務所)、澤
田紘次(八戸工業大学)の7名である。

寄せられた11点の応募作品を対象に、現地審査対象作品
の選考が行われた。選考方法として応募者によって提出され
た資料を基に、各委員が5作品以内の投票を行い、その後討
議によって対象作品を決定した。その結果7作品が現地審査
対象作品として選ばれた。

2004年8月6日、7日の2日間をかけて、選考委員全員で
福島県を横断し、宮城県から岩手県に北上するルートで現地
審査を行った。現地審査の後、盛岡にて東北支部の最終選考
審査を開催した。

その結果、委員全員の意見として、今年はAランクとして
推薦する作品はないことが確認された。次に総合的評価の難

しい作品を検討した。結果として、特殊な条件である強みを
積極的に展開していることを評価した作品と、地域に根ざし
た建築を追求している設計の態度を評価した作品の2作品
をSランクとして推薦することにした。また現地審査を行っ
た中の1作品は、積極的な支持が得られず支部推薦対象から
外した。他の作品はBランクで推薦するのに相応しいとされ
た。

結果として、以下の6作品を「作品選集2005」東北支部推
薦作品とした。

B ランク

御所野縄文博物館

新地町立駒ヶ嶺小学校

身体障害者寮護施設 杏友園

福島県ハイテクプラザ会津若松技術支援センター

S ランク

西会津町立西会津中学校

都市計画の家

最後に本部での選考委員会での印象などを2,3述べてお
きたい。

「身体障害者寮護施設 杏友園」が本部での選考委員会での
投票の結果、選外になったことは残念だった。支部選考での
評価が比較的高かっただけに、「建築選集」の選考の難しさ
を感じました。今回、Aランクの作品を推薦しなかった我々
の選考基準は、適切なものだと確信していますが、他の支部
と比較したとき少し辛すぎるように感じました。また西会津
中学校はとりたててS評価の必要がないとされ、Sランクの
評価を慎重に、という意見を頂きました。そして現地審査を
全員で行っている支部は少ないことも分かりました。

以上今回の東北支部の選考で検討すべき課題だと感じま
した。

2004年度日本建築学会設計競技

東北支部審査報告

東北支部審査委員長 伊藤 邦明

テーマ「建築の転生・都市の転生」

審査会：2004年7月20日

審査委員：伊藤邦明、月舘敏栄、谷津憲司、松井壽則、御
供政敏

応募件数：15点(内、全国入選2点・支部入選3点)

下記は支部入選になった3作品の講評についてです。

大沼正寛

ある種の仮定に基づく具体的提案であるが、なるほどと思
わせるリアリティを感じさせる。

地方都市の空洞化の現象は伝建地区においてさえも現れる。
指定は受けたものの維持管理する人手はなく、後継にも恵
まれず、当主の死後敷地は分割、転売され、安っぽい建売
住宅地に姿を変えるとといった危機が各地の伝建地区に忍び
寄っている。本案は学都でもある弘前の仲町地区を取り上

げ、パラサイトキャンパスを構想する。空き家は教室もしくは寄宿舎に、空き地は畑として学生の食料供給源にといった提案はなるほどと思わせる。大学、地域が相互交流、相互補完し、新たな価値を作り出す構想は新鮮で審査員全員の賛同を得た。

松村巧

三春と言えば地名として名が通っているだけでなく、いくつかの水準を越える建築物を世に出した自治体としも知られる。旧城下町、かつての県庁所在地、自由民権運動の拠点のひとつとして歴史的積み重ねが伺える地域が残り、現在でも大いに魅力ある地方都市であるが、そこにさらに里山を取り込んだ地域デザインを構想する。谷戸を中心とする環境単位の設定、旧来の散策路の再構築、各環境単位毎の整備方針から、散策路と環境単位の接点に構想する施設の提案など論理の展開に隙が無い。具体的な施設の提案に欠けるといふ批判もあったが、これはむしろ新しい流れを作り出すための提案としての面を評価しよう、と言う結果になった。

佐久間綾子

敷地の設定がユニークである。仙台駅駅舎本屋や西側のペDESTリアンデッキはともにデザイン性の薄い構築物であるが、その駅舎前面に横幅260メートル、高さ20メートル、奥行き7メートルの透明空間を出現させる。この透明空間は必要ところがガラスで覆われ、スタンドストリート、幼稚園、魚の泳ぐ水槽、カフェ、温室、広告装置などの機能が嵌め込まれる。屋上はステージ、ガーデンと言う訳であるが、表現は分かりにくく、立面図もない。内容を読み取るのに審査員一同大いに時間を使った。しかしながら、クリエイティビティに乏しい仙台駅前空間に生氣を生む構想に賛同が集まり入選となった。

2004年度支部研究報告会

常議員（学術・教育）石井 敏

第67回（2004年度）の東北支部研究報告会は「みちのくの風2004 福島」として、2004年6月12日（土）・13日（日）の両日、コラッセふくしま（福島市）を会場に開催された。研究報告会は環境系、計画系、構造系の3会場に別れて行われ、それぞれ、両日の午前中、および2日目の午後行われた。今回は環境工学43題、歴史・意匠10題、農村計画7題、都市計画11題、建築計画系21題、材料・施工系14題、構造系31題のあわせて137題が応募・発表された。昨年並みの発表題数だった。2日間での参加者は延べ170名余りで、研究報告と議論が活発に行われた。一題あたり発表7分、質疑応答3分の計10分という発表方式は例年通りであった。また研究論文は「日本建築学会東北支部研究報告集第67号」（構造系・計画系2分冊）として発刊されている。

研究報告会にあわせて、初日の午後には秋山宏日本建築学会会長をお迎えし、会長基調講演「緑地回復と都市建築」が行われた。引き続きパネルディスカッション「少子・高齢社会における地域社会と居住空間」（パネリストに石坂公一：東北大学助教授、菅野典雄：飯館村村長、落合省：福島市都市政策部長、コーディネーターに鈴木浩：福島大学教授、敬称略）も行われ、約120名の参加者を集め盛況に終わることが出来た。これは学会活動の社会還元を図る目的のもので、研究報告会と並び「みちのくの風」における中心的な行事に位置付けられる。このほか、東北建築賞表彰式、受賞記念講演、建築賞のパネル展も同会場で開催されたこともあわせて報告する。

2日間、多くの参加者を集め無事終了することができた。福島県の関係各位をはじめ、研究報告会の準備と運営にあたられた方々、また発表・参加された各位に深く感謝申し上げます。

2004年度日本建築学会東北支部

総会議事録

記録担当：松井 壽則

日 時：2004年5月29日(土) 午後3時50分より

場 所：せんだいメディアテーク7F

出席者：鈴谷二郎支部長以下27名

資 料

資料 No.1：日本建築学会東北支部年報第24号

資料 No.2：2003年度日本建築学会東北支部財産目録

2003年度日本建築学会東北支部収支決算書

会計監査報告書

2004年度日本建築学会東北支部収支予算書(案)

金子佳生常議員の開会宣言の後、同常議員の司会により、以下の要領で総会が行われた。

1. 出席者数および委任状の確認

出席者27名、委任状22通、合計49名の確認があり、東北支部会員1273名の1/30(42名)以上にあたるため、本総会が成立することが確認された。

2. 支部長挨拶

鈴谷二郎支部長の挨拶があった。

3. 議事録署名員の選出

出席者の中から議事録署名員として、御供政敏氏および松井壽則氏が選出された。

4. 議 事

東北支部規程により、鈴谷二郎支部長が議長を務め、以下の事項について審議された。

(1) 2003年度事業報告

最知正芳常議員より、資料 No.1 の支部年報 20 および 21 ページの「2003年度事業報告」にもとづき 2003年度事業が報告され、承認された。

(2) 2003年度収支決算報告

渡辺隆一常議員より、資料 No.2 の 1 および 2 ページの「2003年度日本建築学会東北支部財産目録」および「2003年度日本建築学会東北支部収支決算書」にもとづき 2003年度収支決算が黒字決算であったことが報告された。また、収入の部シンポジウム等収入と支出の部シンポジウム等経費が予算を大きく超過した点について 2 回の地震に対する災害調査報告会関連の収入と支出の増額があったとの

説明が付加された。

(3) 会計監査報告

相沢清志支部監事より、資料 No.2 の 3 ページの通り 2003年度の会計内容については疑義のない旨の会計監査結果が報告された後、質疑応答を行った。

質疑：調査研究事業費の予算額と決算額において大きな差が生じているがどのような理由からなのか説明をいただきたい。

応答：研究部会からの請求があつてからの執行となるが、請求のなかつた部会があつた結果である。

以上の質疑応答の後、2003年度収支決算報告共々承認された。

(4) 2003年度事業計画(案)について

飯藤将之常議員より、資料 No.1 の支部年報 22 および 23 ページの「2004年度事業計画(案)」にもとづき 2004年度事業計画が説明された後、質疑応答を行った。

質疑：表彰の中の法人賛助会員は 40 年表彰ではなく、10 年表彰ではないのか？

応答：10 年毎の表彰であり、昨年までに 10 年以上の法人会員の表彰は終了している。以上の質疑応答の後、承認された。

(5) 2004年度日本建築学会東北支部収支予算書(案)について

相沢清志常議員より、資料 No.2 の 4 ページの「2004年度日本建築学会東北支部収支予算書(案)」が説明され、承認された。

5. 支部功労会員表彰

東北支部表彰規程により、法人会員 40 年以上継続 9 社の表彰が行われた。

以上で、司会者が閉会を宣言し、終了した。

以 上

研究部会活動報告

歴史・意匠部会

部会長 月舘 敏栄

災害を考慮した文化財建造物リストのデータベース構築と活用 - 行政・市民に開かれた文化財リストをめざして -

主催 (社)日本建築学会東北支部建築史意匠部会
後援 文化庁 宮城県教育委員会 仙台市教育委員会

平成 15 年 5 月 26 日及び 7 月 26 日の宮城県北部を襲った大地震は、文化財建造物や歴史的建築にも大きな被害を与えた。被害調査に当たって、国・県・市町村の文化財リストや日本建築学会で作成中の文化財建造物に関するデータベースを利用したが、災害を考慮していなかったために被災状況の実態把握や被災予測に大きな課題が浮かび上がってきた。

このような文化財建造物・歴史的建築を巡る災害状況を考えると、建築学会建築史意匠部会で進めてきたデータベースに災害に関する情報を追加する必要性を痛感し、シンポジウム「災害を考慮した文化財建造物リストのデータベース構築と活用 - 行政・市民に開かれた文化財リストをめざして -」を建築史意匠部会で企画し、去る 3 月 11 日に東北工業大学一番町ロビー 4 階ホールで開催した。開催に当たっては、文化庁・宮城県教育委員会・仙台市教育委員会のご後援を頂いた。最初に、池上重康氏(北大)が学会として進めている歴史的建築リストのデータベースと災害の関係について報告し、廣澤康氏(新潟県教育庁)は中越地震による被災文化財の状況に関する報告を行った。続いて、永井康雄氏(東北大)が東北支部におけるデータベースに約 5000 件のデータを入力し、一部に災害関係データも含まれていることを報告した。最期に、小沼景子氏(文化庁)は、文化庁として整備中の文化財データベースの概要を説明し、今後は学会等とデータベースとリンクさせて災害などにも活用できることが必要の指摘を行った。堅いテーマにかかわらず行政の文化財担当者はじめとした約 40 名の参加者から具体的な質問が活発にでるシンポジウムとなり、成功裏に終わった。



建築計画部会

部会長 小野田泰明

社会が大きく変化する中であって、地域における建築計画の役割も大きく変化しつつあります。建築計画部会では昨年度の活動として次世代のための環境にテーマを当て、二つの事業を行いました。ひとつには、建築教育の支援です。八戸工業大学建築工学科で 2004 年 9 月 24 日行われた講演会「建築は社会構造を変革出来るか? - せんだいメディアテークから考えたこと」を支援・共催しました。工大側幹事の月舘先生の御尽力もあって、当日は 200 名近い若い参加者を迎えて活発な議論がたたかわされました。

二つ目は、小学校に関する研究です。近年課題となっている小学校の安全について学会支部研究事業の形で調査しました。佐藤慎也先生(山形大学)を中心とするプロジェクトチームが、東北 3 県(宮城、山形、福島)の小学校に対して行ったエリア別抽出アンケートの結果、196 校から有効回答を得ることが出来ました。分析中ですが、おおまかな傾向が見えてきましたので報告させていただきます。

安全確保のため校舎改築を行ったケースはほとんど見られませんでした。門の施錠を徹底しているところは多く、仙台市、福島市部ではほぼ 6 割の実施となっています。一方、郡部では施錠率は低くなっているものの市部同様 7 割近くが校区の安全に疑念を抱いており、安全の認識と方策の間に温度差があることが読み取れます。また、教員による巡回の徹底が池田小事件を契機に積極的となっている状況も捕らえることが出来ました。

学校の安全確保上もっとも有効と思う対策については、仙台では警備員による巡回が圧倒的に高いのですが、山形や福島では、校舎設計、警備員、職員意識がほぼ並ぶ傾向を示しています。実際に警備員を雇っている学校はごくわずかなのですが、潜在的なニーズは高いことが読み取れます。またこの項目では、行政単位による差が大きく、山形県では新庄マツト事件の影響からか池田小学校以前から校内巡回に取り組む学校が多い一方で、警備を強化する取り組みには消極的であるという特徴的な傾向が示されています。

部会では、これらデータの分析をさらにすすめた上で、パブリックに報告することを計画しています。

地方計画部会

部会長 増田 聡

2003 年 5 月、7 月に発生した地震災害では、東北支部地震災害調査 WG による調査が進められ、その成果は学会報告書(黒表紙)[2004]として公表されました。残念ながら、部会全体としての展開ではなく部会員の個人的参加という形になりましたが、将来の宮城県沖地震に対する「計画分

野」からの対応を事前に検討しておく必要もあると思われます。特に、事前復興、災害情報の都市計画実務へのフィードバックなど多くの課題が残されています。一昨年12月に発足した「宮城県沖地震対策研究協議会」の「地域づくり部会」では、文部科学省の研究費を得て、防災力の高度化・インセンティブ防災マップの作成等を進めております。地方計画部会員の皆様で、防災まちづくり・マップづくりワークショップ等に御協力いただける方は、増田までご連絡下さい。

次に、前期からの引き継ぎとして、「東北のまちづくり・村づくり事例集」の作成があります。来年度に向けて、情報収集体制の再構築と事例集の利活用方策について検討を進めたいと思います。本企画について、ご意見等あれば、増田までお寄せ下さい。

また、本年度から、環境工学部会と共催で都市環境・持続可能なまちづくり等に関する研究会を開催中です。詳細は改めてご連絡致します。

- ・地方計画部会 増田聡 masuda@econ.tohoku.ac.jp
- ・宮城県沖地震対策研究協議会
<http://www.disaster.archi.tohoku.ac.jp/kyogikai/>
- ・文部科学省：平成16年度「防災研究成果普及事業」の採択結果について
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/16/07/04063001.htm
- ・迫り来る宮城県沖地震に備えた地域防災情報の共有化と防災力高度化戦略(宮城県・仙台市・東北大)

構造部会

部会長 井上 範夫

平成16年度は、新しい技術の最先端に関する情報交換を行うことを目指して部会を2回開催いたしました。

第1回目は、9月27日に仙台ビジネスホテルで行い、在仙の設計技術者の方より、免震・制振建物の設計から施工にわたる最新の技術についてお話を伺いました。題目は、山下設計の鈴木康一氏から「免震建物の設計 仙台子供病院」、制振建物 東北大学工学研究科西総合研究棟、奥山敦之氏から「免震によるレトロフィット 外務省本館」、東北工業大学の船木尚己講師から「東北工業大学の制振」であり、仙台市に建つ建物を主な例とした身近な内容でした。阪神大震災以降、損傷を制御する設計法として免震・制振建物が多用されるようになってきており、平成15年5月26日におきた宮城県沖の地震では記録が採れて、仙台でも免震・制振の効果が検証されており、有意義な情報交換でした。

また、第2回目は、東京からの情報に注目することとし、鹿島建設技術研究所の鈴木紀雄博士から「最近の超高層ビルの耐震設計」と題して、3月23日に仙台ビジネスホテルでご講演をいただきました。最近、東京では、鉄筋コンクリートによる40から50数階建ての超高層ビルが多数建て

られており、それを可能としている技術として、コンクリート、鉄筋等の材料の高強度化や、コア壁架構、チューブ架構、スーパーRCフレーム架構(最上層にハットビームとしてスーパービームを架け、柱との間にダンパーを設置して減衰を与えて応答を制御するもの)等の構造計画を工夫したものの紹介が行われました。これらを可能とするためには、多くの実験や解析による裏付けがなされており、最新の技術を理解することが出来ました。さらに、超高層ビルにおける制振・免震の適用や、世界貿易センタービルがテロ攻撃により崩壊していく状況をシミュレーション解析した結果も紹介され、興味ある話を伺うことが出来ました。

環境工学部会

部会長 持田 灯

平成16年度は、以下の催しを開催した。

- 1) 講演会「NCRでの研究から“学校の音環境調査”について」(7月27日)
 - 2) 新地町役場見学会(8月4日)
 - 3) 公開シンポジウム「気持ちよく住むなんて簡単？」(8月21日)
 - 4) 新エネルギーシステム見学会・講演会(10月15,16日)
 - 5) シンポジウム「建築・都市計画と環境工学の連携を探る」(10月20日)
 - 6) 第45回環境設備研究会 - 健康で快適な室内環境実現に向けて - (10月21日)
 - 7) 朝日町エコミュージアムコアセンター見学会(10月22日)
 - 8) 講習会「低温送風空調システムの計画と設計」(12月2日)
 - 9) 第46回環境設備研究会 - 建築設備のコミッショニングの現在 - (1月26日)
 - 10) シンポジウム「東北地方の給排水設備と空調設備の凍結対策」(2月16日)
- 1)と5)が本部会単独の企画で、2),4),6)~10)は空気調和・衛生工学会東北支部他との共催、3)は建築学会の住環境特別委員会等との共催である。盛り沢山の内容であり、10/21~10/23に3つの行事が集中した10月はなかなか慌ただしかった。
- 5)は昨年度からの検討課題である「計画系と連携」を一步先に進めることを願って開催したものである。支部長の近江隆先生、地方計画部会長の増田聡先生や針生承一先生、森山雅幸先生他の計画、デザイン、造園等の専門家にご参加いただき、福島県原町市を事例として、環境工学の研究成果を建築計画、都市計画に活かす方法についての議論を試みた。論点が絞り込めず話が噛みあう前に終わってしまったという印象で残念に思ったが、今後、第2段を開催し議論を深めていきたいと考えている。また、次年度の講演会のテーマとして、「木質バイオマス利用」、「高齢化社会における環境工学上の問題」を取り上げることとし、現在、その企画を練っているところである。

材料部会

部会長 山田 寛次

平成 16 年度の研究課題として、昨年度から引き続き、「建築材料学の教育ツールに関する調査研究」をテーマに、活動してきた。このテーマは、現在の建築材料学教育を再考して、新たな観点で整理し直そうというものである。具体的な課題は、教材のデータベース化、教育プログラムの作成であり、下記のとおりに活動した。

1. 研究会(6月12日、コラッセ福島・会議室)

8名が出席し、今年度の取り組みについて討議した。決定したのは、年間3~4回程度の部会を開催し、建築材料学データベースとビジュアルなプレゼンテーション資料の充実化を図る、今年度の教育文化事業計画として「耐久設計指針」の講演会を開催する、の二点である。

2. 研究会(8月24日、日本建築学会東北支部・会議室)

8名が出席し、Webを利用して部会員が共有できる教材についてのイメージ摺り合わせ、および教育文化事業の開催方法と業務分担について討議した。

3. 研究会(12月10日、ハーネル仙台・会議室)

8名が出席し、研究課題の進捗状況の確認と次年度の研究計画の検討を行った。

4. 「鉄筋コンクリート造建築物の耐久設計と長寿命化」に関する講演会(12月10日、ハーネル仙台)

日本建築学会・教育文化事業の一環として、材料部会、施工部会の共同開催で、宮城県建設業協会の後援を頂き、榊田教授(宇都宮大学)、野口助教授(東京大学)をお招きして講演会を開催した。最初に野口助教授により鉄筋コンクリート造建築物の耐久設計の枠組みについて、次いで榊田教授より性能検証型の耐久設計の特徴と長寿命化の実現方法について、合計3時間半の講演をいただいた。近年、進歩の著しい分野で、関心も高く、建設業、設計事務所の実務者を中心に予定を上回る45名の出席があり、活発な質疑が交わされ、盛況であった。

施工部会

部会長 伊藤 憲雄

平成 16 年度は、前任者の部会長 山田大彦先生(東北大学)から伊藤に引き継がれ、鈴木孝之氏(大成建設株)および渡辺和之氏(株熊谷組)の両氏が心強い幹事として活動を皆様と共に進めることになった。

平成 16 年度の活動は、次のとおりであった。

1) 見学会(1回):東北電力中仙台変電所建設工事(防音全天候テント仮設済み、内部山留め掘削作業中)の見学。

2) 講演会:「鉄筋コンクリート造建築物の耐久設計と長寿命化」(材料部会との共催)では、野口貴文博士(東京大学)には「鉄筋コンクリート造建築物の耐久設計の枠組み」、榊田佳寛博士(宇都宮大学)には「性能検証型耐久設計の特

徴と長寿命化の実現方法」についてご講演を戴いた。

3) 勉強会(4回):勉強会では、活動のテーマは2~3年の期間で行えるテーマが良いとの意見を基に、種々話し合いの中から選択された話題が「ストックマネジメント」であった。まずプロローグとして、東北整備局の原田和幸氏にストックへの意識変化、ストックマネジメント、保全への取組、建築物の周辺に対する影響を考慮した意匠の採用などを講演と横浜税関保存改修工事の事例記録DVDを、渡辺和幸氏からは日本火災海上横浜ビルの「保存と再生」に関するビデオの紹介があり、それぞれ活発な意見交換が行われた。

次年度は、これらの部会で提案された内容などを整理し、より具体的な検討ができるよう活動の方向性を明らかにする予定である。

建築デザイン教育部会

部会長 伊藤 邦明

建築デザイン教育を巡る状況は一段と具体性を帯びてきている、とあってよいであろう。まず、その柱は技術者教育認定機構JABEE(Japan Accreditation Bureau of Education for Engineer)であり、次にUIA(Union International of Architects)の認定プログラムの開示と、それに連動した大学院JABEEの検討開始である。

2005年度、千葉大、北大、金沢工大、日本女子大の4校がJABEE認定第一号として登録された。さらに2005年度には十指を超える応募があると漏れ聞く。2005年3月30日学会本部での建築教育認定事業委員会では高梨委員長から、ワシントンアコード準加盟を踏まえた、技術者教育の国際的同等性の確保や、2004年9月にクイーンズランド工科大学(オーストラリア)で行われたUNESCO/UIA認定システムに準拠した認定試行にオブザーバーを派遣、さらには2005年2月に行われた早稲田大学で行われた審査シミュレーション(これにはUIAからLouis Cox 女史とFernando Ramos氏が出席)の報告があり、筆者を含めた委員間で活発な意見交換が行われた。幸い筆者はこれらの重要会議の多くに、深く関わる立場にあったため、いち早く委員諸氏には情報を流す事ができた、と考えているが、東北支部における数年に渡る委員諸氏との意見交換が筆者の発言を意義あるものとしたことには、深く感謝している。

年度末土壇場に一昨年JABEE認定を取得した千葉大学工学部デザイン工学科建築系の服部岑生教授を、3月3日東北支部にお招きし、実際のJABEE認定に当たっての審査方法や大学側の留意点、認定取得後の学科の様子などについて具体的なお話を伺った。

「JABEEの建築系プログラムは、包括的な建築教育を行う基礎科目と、高度な建築教育を行う専門科目に分けられている。専門科目は、その大学の独自のカラーを出して良い

が、基礎科目については、設計・計画、構造、環境、生産の4分野をまんべんなく教育している必要がある。千葉大学では、環境の科目が若干弱かったため、数年を掛けて常勤の教員を雇うなどして準備を整えた。

JABEEの認定取得後は、受験者数が予想以上に伸び、また学生や教職員も自らの大学をよくしていこうという意識が強く出始めている」とのことであった。さらに、教室会議などの各種会議の出欠をとるようになったことや、講義の内容をお互いに見合う勉強会を始めたことなど、具体的な変化の様子を伺うことができた。

尚、今年度をもって伊藤は東北大学を定年により去るため、2005年度は部会長、千葉政継・宮城大学教授、幹事、櫻井一弥・東北大学助手の体制に変わります。長らくの御協力ありがとうございました。

東北支部災害調査連絡会

委員長 田中 礼治

2004年度の災害調査連絡会の組織は、2003年度のものを引継ぎ、活動を行った。

2004年10月23日(土)に新潟県中越地震が発生したので、東北支部災害調査連絡会としての対応を決めるために、2004年10月26日(火)に連絡会を開催した。参加者は18名であった。23日～25日の各機関での調査結果などを参考にすると同時に、連絡会の年間予算なども勘案し、東北支部災害調査連絡会の支援方針を次のように決定した。

日本建築学会の災害委員会本部、北陸支部から支援要請があった場合には、それらの支援要請を東北支部のウェブページに掲載し、調査支援を行いたい方に申し出てもらう。

連絡会としては、その方を連絡会から推薦する。また、連絡会の幹事から東北支部のメンバーの中で適任者がいた場合には打診する。

日本建築学会の災害委員会本部、北陸支部から支援要請がない場合でも、個人的な活動は行っても良い。

北陸支部などから東北支部に支援要請があった場合は、連絡会としては支援、協力する。

上記の決定事項に基づき、東北大学、東北工業大学などでは調査を行い、成果をあげていることを報告しておく。

青森支所

支所長 松代 眞

2004年度の青森支所の活動状況について報告します。

まず、6月10日に幹事会を開催し、今年度の事業計画を検討し「全員協議会」、「東北建築賞受賞作品展示会」及び「親と子の建築講座」の開催を決定いたしました。

7月23日には恒例の全員協議会を開催し、幹事会で決定しました事業計画等を報告し、会員に協力をお願いするとともに親睦を深めたところであります。

また、7月25日(日)には“家の模型を作ろう”をテーマに、県立弘前工業高等学校との共催で「親と子の建築講座」を開催しました。今年度は、文部科学省の補助採択を受けられませんでした。支部の心強いバックアップによって、開催を継続することができました。今回は、親と子が力を合わせてCADシステムを使って二次元図面である「旧官立弘前高等学校外人教師館」の平面図等を描いて、その建物をイメージした後で、それらの図面データを使って内部をウォークスルーして三次元空間を疑似体験し、実際に建物模型を作って三次元立体を実感してもらう内容でしたが、18組の親子の参加の下、驚きと感動のうちに終了しております。

2005年度も引き続き、この講座を開催し多くの子供たちに、建築の持つ魅力などを伝えると共に、楽しい親子の一時を過ごしていただきたいと考えております。

さらに、10月には「東北建築賞受賞作品展示会」を八戸工業大学で開催し、好評を博したところであります。

今後も関係団体との連携を図りながら、地域に根ざした支所活動を実践して参りたいと考えております。

秋田支所

支所長 小野田 吉純

平成16年度、秋田支所では、今年で33回目の開催となる、当支所の主催で県や関係団体の後援を得て実施している「秋田県学生・生徒による建築設計作品コンクール」を中心に活動してまいりました。

「建築設計作品コンクール」に応募された作品は、高校の部が14点、大学・短大・専門学校の部が10点で、身近な地域の自立・活性化、少子・高齢化への提案など、社会性が強く反映された作品が多かったのが特徴でした。

その中から優秀な作品に対して知事賞や建築学会支部長賞などを授与しました。表彰された作品は平成17年2月26日と2月27日に秋田市の駅東に新たに建設された「秋田拠点センター A L V E」において作品展を行い、広く県民の皆様に紹介致しました。

平成 17 年 2 月 25 日には建築設計作品コンクールの表彰式終了後、当支所と秋田県及び県内建築関係団体との共催事業として、講師に独立行政法人建築研究所上席研究員兼研究主幹岩田司氏をお招きし、「地域に根ざしたすまいづくり - 伝統の継承と新技術 - 」をテーマにした講演会を開催しました。講演会は、一般の方も含む約 163 名の参加者があり好評を博す事が出来ました。

また、平成 17 年 3 月 12 日から 22 日に、「第 24 回東北建築賞作品展」を秋田市の「けんみん住宅サロン」で開催し、多数の方にご来場頂き好評のうちに作品展を終了致しました。

今後とも関係団体や学校・研究所との連携を深めながら、地域に根ざした支所活動を進めてまいります。

岩手支所

支所長 日野 康彦

2004 年度の岩手支所の活動状況について報告します。

今年度の活動としては、5 月 17 日に盛岡市内のホテルで（社）都市住宅学会東北支部が主催し、いわてハウジングフォーラムや岩手県などが共催して、「いわてにおける高齢者の住環境の現状と課題」をテーマに講演会が開催され、東北支部でも後援をしました。

講演は、ユニバーサルデザインなどを研究されている岩手県立大学の狩野徹先生から、高齢者の住環境に関する動向や今後の課題などを説明していただき、100 名を超える聴講者があり盛況でした。

6 月 25 日には、東北支部災害調査連絡会の主催による「2003 年 5 月 26 日宮城県沖の地震・2003 年 7 月 26 日宮城県北部の地震災害調査報告会」を東北では最初に盛岡市内で開催し、田中礼治先生をはじめ各先生方から地震災害の説明をしていただきました。

また、例年、単独で開催していた東北建築賞受賞作品展示会について、今年度はより集客が見込まれるいわて住宅祭に併設して開催しました。いわて住宅祭は今年度で 21 回目を迎え、県内で最大級のイベントであり 1 万 7 千人を超える来場者がありました。これからも、この機会を利用して開催し、たくさんの方々に見ていただきたいと考えております。

さらに、毎年開催されている盛岡市主催の「第 28 回盛岡市都市景観シンポジウム」が、11 月 19 日に開催され、当支所でも後援をしました。

都市景観賞の表彰式、基調講演の後、「もりおかの原<現>風景～わたしの想うまち～」と題し、盛岡らしさの景観について熱心なパネルディスカッションが行われました。

今後とも、建築関係のイベントなどに主催や後援するなど、

機会をとらえて学会と地域社会との交流を図る諸事業を開催していきたいと考えております。

山形支所

支所長 有路 廣志

2004 年度の山形支所の活動について報告いたします。今年度は、2 つの「親と子の建築講座」を中心に活動してまいりました。

10 月 3 日には、2004 親と子の建築講座の第 1 弾として「やまがたレトロ館めぐり」を開催し、親子 4 組を含め、14 名の方々に参加していただきました。子供たちに建築の楽しさを感じてもらうことを目的として 3 回目の開催となった今回も、子供達にとっては建築に興味を持ってもらうこと、大人の参加者にとっては歴史的建築物の保存・活用に対する意識を持ってもらうことの良いきっかけ作りとなったと思っております。

10 月 23 日には、2004 親と子の建築講座の第 2 弾として「コンピューターによる住宅モデル作成」を開催しました。参加者全員に、建築 3 次元 CAD を使用した空間シミュレーションを行っていただきました。親子それぞれが思い思いの小住宅を完成させ、出来上がった鳥瞰図とウォークスルーアニメーションを見たときの感想からは、本講座の「建築をデザインする楽しさを体験する」という目的を十二分に達成していただけたと思っております。

これらイベント等の開催には、関係団体、学校等多くの方々の協力をいただきました。今後もこのようなイベントをはじめとして、関係団体のご協力を仰ぎながら、活発な活動を推進していきたいと思っております。

また、平成 17 年 6 月には「みちのくの風 2005 山形」が山形市の文翔館(旧県庁舎)を会場に開催されます。支部との連携の下、事業の成功に努めてまいりますので、ぜひ山形へお越しください。

福島支所

支所長 菊池 光矩

2004 年度の福島支所の活動状況について報告します。

今年度は、(社)日本建築学会東北支部主催による「みちのくの風 2004 福島」が 6 月 12 日(土)、13 日(日)の 2 日間にわたり本県において開催され、「第 67 回東北支部研究報告会」、「緑地回復と都市建築」をテーマとした「日本建築学会会長基調講演会」、「少子・高齢社会における地域社会と居住空間」をテーマとした「パネルディスカッション」、「第 24 回東北建築賞表彰式並びに受賞記念講演会」がコラッセふくしまを会場にそれぞれ開催されました。

コラッセふくしまの会場では、福島支所主催による「第 24 回東北建築賞受賞作品パネル展示会」を開催し、県内外から会員や一般の方々など多数の来場者をお迎えすること

が出来ました。

これらのイベントにより、一般の方々へ学会への関心を深めていただくとともに、学会活動の社会還元行事として、支所として近年にない充実した活動を実施できたと思っております。

今後とも、関係団体等との連携を図りながら、地域に根ざした支所活動を実践して参りたいと思います。

常議員会から

常議員 出村 克直

常議員会は、支部長、14名の常議員（総務・企画4名、社会・文化3名、学術・教育3名、会計・会員2名、図書・情報2名）、支部長から任命された企画運営委員(1名)及び支部監事(2名)並びに支所長(青森支所・秋田支所・岩手支所・山形支所・福島支所)で構成されている。なお、常議員会の開催に当っては、総務会(支部長と総務・企画担当常議員)で議事内容などを検討している。又、年度初めに、支部長、総務・企画担当常議員も出席して、支部長会議を実施している。

常議員会は、原則として毎月行われるが、議案が少ない場合には、ネットワーク会議としている。常議員会では、様々な議題が取り上げられ、支部活動が円滑に行われるよう努めている。又、学会本部の活動状況を踏まえた支部活動ができるよう、常議員会の冒頭で、理事会及び支部長会議の審議・報告内容が紹介される。本年度の常議員会で取り上げられた主な議事・報告のタイトルを要約して以下に示す。なお、以下の議事にあるように、「支部研究報告集の表紙」について何回かの議論を重ねており、平成17年度から、研究報告集の表紙が変わります。

【2004年4月ネットワーク会議】次期支部長・常議員の選挙開票報告と役割分担、支部年報の編集状況、2003年度決算報告、みちのくの風2004福島の進捗状況、総会付随行事と案内状発送者リスト

【5月】総会及び懇親会の準備確認、支部年報編集状況、4月会計報告、第25回東北建築賞選考委員の常議員枠、支部事務職員の処遇、みちのくの風2004福島の進捗状況、支部事業促進費申請、「仙台市有施設耐震診断等判定委員会」委員の推薦、学術推進委員会の支部選出委員、災害調査委員会より

【6月】2004年度支部総会報告、みちのくの風2004福島の報告、「作品選集2005」応募結果の報告、5月会計報告、宮城県建築士会指名理事就任、文部科学省科学研究費補助金の採択の結果、福島支所規約改正、年間行事予定、理事会への支部長代行者、災害調査報告会の仙台市での開催、連続まちづくりセミナー（仙台会場）「みちのくの風」次期開催地

【7月】日本建築学会設計競技審査報告、連続まちづくりセミナー、災害調査報告会・仙台市、「みちのくの風2005」の開催地、災害調査体制整備および市民啓蒙活動実施、学会賞（論文）の推薦、「作品選集2005」選考部会会議、支所長会議の日程、特色ある支部活動企画、東北建築賞（作品賞）審査委員会における環境工学部会委員

【9月】

第15回東北建築作品発表会の準備状況、「作品選集2005」支部推薦並びに掲載決定の報告、2004年度日本建築学会設計競技全国審査の報告、日本建築学会賞候補推薦書提出の報告、第6期代議員および支部役員の選挙日程、6、7、8月会計報告、秋田支所からの後援依頼、選挙管理委員会の設置、2005年度支部総会の日程、特色ある支部活動の企画提出、2005年度日本建築学会設計競技の課題、2005年度日本建築学会文化賞候補の推薦、2005年度日本建築学会大賞業績候補の推薦、2005年度支部研究報告会並びにみちのくの風2005

【11月】建築物荷重指針改定講習会の報告、第15回東北支部作品発表会、2005年度日本建築学会設計競技支部審査委員の報告、9・10月会計報告、特色ある支部活動事業計画書の提出と結果報告、新潟県中越地震の東北支部災害委員会活動報告、代議員・常議員候補者届出状況、支部研究報告会募集要項、次期作品選集選考委員の選定、仙台弁護士会災害復興支援検討特別委員会、みちのくの風2005山形、東北工業大学からの後援依頼

【2005年1月】「高強度コンクリート施工指針(案)・同解説」講習会、11、12月会計報告、作品選集2006の委員、次期代議員・常議員候補者届出、支部研究補助費の申請、本部・都市計画委員会の後任委員の推薦依頼、支部年報第25号発刊計画、事務局員の産休育児休暇の申請、みちのくの風2005山形、支部総会前のイベント

【2月ネットワーク会議】高強度コンクリート施工指針改定講習会、本部都市計画委員会の後任委員の推薦依頼、事務局員の産休育休中の代替の人材、みちのくの風2005山形、東北建築作品集の表紙、災害委員会への委員推薦、総会付随行事の進捗状況

【3月】支部長会議報告、第25回東北建築賞（作品賞）選考報告、全国大学・高専卒業設計展の日程、支部功労会員、1、2月会計報告、災害委員会への委員の推薦、2005年度予算（案）支部総会と付随行事、東北建築賞・東北建築作品発表会、支部研究報告集の表紙、みちのくの風2005山形、2005年「建築文化事業」開催

支部役員名簿

東北支部常議員・企画運営委員の構成と役割分担

役割	2004年度	2005年度
	(2004年6月~2005年5月)	(2005年6月~2006年5月)
支部長	近江 隆 (東北大)	近江 隆 (東北大)
総務企画	飯藤将之 (宮城高専) 前田匡樹 (東北大) 出村克宣 (日本大) 船木尚己 (東北工大)	出村克宣 (日本大) 船木尚己 (東北工大) 大野晋 (東北大) 山畑信博 (芸工大)
社会文化	澤田紘次 (八戸工大) 佐藤忠幸 (建築工房 DADA) 原田和幸 (国道交通省)	佐藤忠幸 (建築工房 DADA) 込山敦司 (秋田大) 宮腰直行 (八戸工大)
学術教育	石井 敏 (東北工大) カルキーマダン (秋田県立大) 小野田泰明 (東北大)	小野田泰明 (東北大) 月橋修 (東北工大) 野内英治 (日本大)
会計会員	高砂秀敏 (仙台市) 八巻正信 (JR 東日本)	八巻正信 (JR 東日本) 横山直樹 (仙台市)
図書情報	渡澤正典 (日本大) 佐藤慎也 (東北文化学園大)	佐藤慎也 (山形大) 山田寛治 (日本大)
企画運営	細田洋子 (仙台市)	細田洋子 (仙台市) 山北孝治 (国道交通省)
事務局	伊藤章子	渡辺美香

研究部会長

研究部会	部会長
構造	小野瀬順一 (東北工業大学教授)
材料	金子佳生 (東北大学助教授)
建築計画	小野田泰明 (東北大学助教授)
地方計画	増田 聡 (東北大学教授)
歴史意匠	安原盛彦 (秋田県立大学教授)
施工	伊藤憲雄 (宮城工業高等専門学校教授)
環境工学	持田 灯 (東北大学助教授)
デザイン教育	千葉政継 (宮城大学教授)
災害調査連絡会	源栄正人 (東北大学教授)

東北支部会員数 (2005年4月1日現在)

名誉会員	1名	準会員	26名
終身会員	44名	賛助会員	8法人
正会員(個人)	1,332名		
正会員(法人)	58法人		

東北支部監事

2004年6月~2005年5月

相沢清志 (仙台市)
渡辺隆一 (JR 東日本)

2005年6月~2006年5月

渡辺隆一 (JR 東日本)
高砂秀敏 (仙台市)

東北支部選出代議員

任期	代議員
2004年4月 ~ 2006年3月	倉田光春 (日本大学教授) 後藤 工 (JR 東日本東北工事事務所副課長) 菅野 實 (東北大学教授) 渡辺正朋 (八戸工業大学教授)
2005年4月 ~ 2007年3月	三浦金作 (日本大学教授) 細田洋子 (仙台都市総合研究機構企画調査部長) 植松 康 (東北大学教授) 佐藤彰芳 (国土交通省東北地方整備局建設部住宅調整官)

支所長

支所	支所長
青森支所	千葉和郎 (青森県農林水産部構造政策課農林建築指導監)
秋田支所	小野田吉純 (秋田県建設交通部参事)
岩手支所	澤口政登志 (岩手県土木部建築住宅課長)
山形支所	有路廣志 (山形県土木部建築住宅課長)
福島支所	渡辺光司 (福島県土木部建築領域建築住宅企画グループ参事)

2004 年度事業報告

事務の部

総 会	1. 2003 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2004 年度事業計画・予算案 3. その他(出席者 49 名、委任状含)	2004 年 5 月 29 日 せんだいメディアテーク
諸 会 合	総会(1)、常議員会(11)、支所長会議(1)、東北建築賞作品賞選考委員会(3)、設計競技審査会(1)、選挙管理委員会(1)、作品選集選考委員会(2)	()は回数
代議員半数改選	(留任)小林 淳、若井正一、玉井龍男、伏見義則 (新任)菅野 實、倉田光春、後藤 工、渡辺正朋	2003 年 4 月～2005 年 3 月 2004 年 4 月～2006 年 3 月
支部長改選	(退任)鈴谷二郎 (新任)近江 隆	2002 年 6 月～2004 年 5 月 2004 年 6 月～2006 年 5 月
常議員半数改選	(退任)井上高秋、金子佳生、最知正芳、野崎淳夫、松井壽則、御供政敏、渡辺隆一 (留任)石井 敏、加藤 マンバル、澤田紘次、高砂秀敏、飯藤将之、前田匡樹、渡澤正典 (新任)小野田泰明、佐藤慎也、佐藤忠幸、出村克宣、原田和幸、船木尚己、八巻正信	2002 年 6 月～2004 年 5 月 2003 年 6 月～2005 年 5 月 2004 年 6 月～2006 年 5 月
企画運営委員	細田洋子	2004 年 6 月～2005 年 5 月
支 部 監 事	相沢清志、渡辺隆一	2004 年 6 月～2005 年 5 月

支部事業

研究委員会	[部会名] [部会長] [テーマ名] 構 造 : 井上範夫 構造技術における新しい試み 材 料 : 山田寛次 新たな建築材料学教育のための調査研究 建築計画 : 小野田泰明 21 世紀にむけた生活環境の創造 地方計画 : 増田 聡 ・東北のまちとまちづくり ・防災まちづくり ・環境問題と中心市街地の再編 歴史意匠 : 月館敏栄 災害を考慮した歴史的建造物のデータベースと活用方法の研究 環境工学 : 持田 灯 気候特性の分析とこれに基づく環境計画 施 工 : 伊藤憲雄 建築現場における最新技術とその施工法について 建築デザイン教育 : 伊藤邦明 建築教育の充実を世界的視点から再調査する 災害調査連絡会 : 田中礼治 東北地域における地震及び各種災害が発生した時の調査、広報に関わる連絡や調整および関連事業の企画立案と支援	
支部研究助成金による研究	地域に開かれた安全な小学校建築のあり方に関する研究 建築計画部会(研究責任者 小野田泰明)	2004 年 4 月～2005 年 3 月
特色ある支部活動	災害を考慮した歴史的建造物のデータベースと活用方法の研究 (研究責任者 月館敏栄)	2004 年 4 月～2005 年 3 月
支部研究報告会	2004 年度東北支部研究報告会、研究報告集第 67 号計画系・構造系 刊行 発表題数 138 題	2004 年 6 月 12 日～13 日 コラッセ福島
支 部 主 催 支 部 共 催 イ ベ ント	1. 支部主催 1) 建築文化週間事業 「建築のひみつ“かたちとつよさ”」 「やまがたレトロ館めぐり」 2) 第 15 回「東北建築作品発表会」の開催(仙台市) 3) 第 25 回「東北建築賞」の選考 4) みちのくの風 2004 福島 ・支部研究報告会 ・日本建築学会会長基調講演会ならびにパネルディスカッション「少子・高齢社会における地域社会と居住空間」 ・第 24 回東北建築賞授賞式並びに作品発表会 ・第 24 回東北建築賞受賞作品展示会	2004 年 10 月 17 日 2004 年 8 月 7 日 2004 年 10 月 2 日 せんだいメディアテーク 2004 年 6 月 12 日～13 日 コラッセふくしま

	2.支部共催 1) 親と子の建築講座 福島会場「建築のひみつ“かたちとつよさ”」 仙台会場「八幡町まちたんけん 歴史と文化を生かしたまちづくりを考えよう」 青森会場「家の模型を作ろう」 山形会場「やまがたレトロ館めぐり」 山形会場「コンピューターによる住宅モデル作成」 2) 第24回東北建築賞作品展示会 仙台市、盛岡市、山形市、八戸市、秋田市、郡山市	2004年10月17日 2004年7月30日 2004年7月25日 2004年8月7日 2004年10月24日 2004年10月~2005年3月
研究部会主催	1.シンポジウム 2.その他、部会ごとに講習会・研究会・見学会などを適宜開催	
表彰	1.第24回東北建築賞作品賞 作品賞 6点、作品奨励賞 2点、 2.支部功労会員 個人会員該当者なし 法人賛助会員 40年以上継続 10社	2004年6月12日 コラッセふくしま 2004年5月29日 せんだいメディアテーク
支所活動	青森支所 ・全員協議会 ・第24回東北建築賞作品展示会：八戸市 ・親と子の建築講座「家の模型を作ろう」：弘前市 秋田支所 ・役員会 ・第33回建築学科生徒による建築設計作品コンクール：秋田市 ・第24回東北建築賞作品展示会：秋田市 岩手支所 ・第24回東北建築賞作品展示会：盛岡市 ・第31回県内工業高校生徒設計製図作品コンクール後援 ・第35回県下工業高校設計作品コンクール：盛岡市 山形支所 ・第24回東北建築賞作品展示会：山形市 ・親と子の建築講座「やまがたレトロ館めぐり」：山形市 ・親と子の建築講座「コンピューターによる住宅モデル作成」 福島支所 ・第24回東北建築賞作品展示会：郡山市 ・親と子の建築講座「建築のひみつ『かたちとつよさ』」：郡山市	2004年10月 2004年7月25日 2005年3月 2005年3月 2005年2月 2005年2月 2005年2月 2005年1月 2004年8月7日 2004年10月24日 2004年6月12日・13日 2004年10月17日
刊行活動	支部年報第24号発刊 東北支部研究報告集第67号計画系・構造系発刊 東北建築作品集(第15号)発行	2004年5月29日 2004年6月12日 2004年10月2日

支部共通事業

講習会	連続まちづくりセミナー 建築物荷重指針改定講習会 高強度コンクリート施工指針(案)・同解説講習会	2004年7月13日 ハーネル仙台 43名参加 2004年9月29日 ハーネル仙台 46名参加 2005年2月17日 ハーネル仙台 69名参加
展示会	全国・大学高専卒業設計展示会 仙台市、八戸市、郡山市、山形市、本荘市	2004年6月~2005年1月
審査会	2004年度支部共通 日本建築学会設計競技 テーマ：「建築の転生・都市の転生」 応募総数 15点、全国入選 2点、支部入選 3点 日本建築学会「作品選集 2005」支部審査会 応募総数 11点、本部推薦 6点、作品選集掲載決定 5点	2004年7月20日 支部会議室 2004年6月24日 支部会議室 2004年8月6日・7日 現地審査

2005 年度事業計画（案）

事務の部

総 会	1. 2004 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2005 年度事業計画・予算案	2005 年 5 月 21 日 せんだいメディアテーク
諸 会 合	総会(1)、常議員会(11)、支所長会議(1)、東北建築賞作品賞選考委員会(3)、東北建築賞研究奨励賞選考委員会(1)、東北建築賞業績賞選考委員会(1)、設計競技審査会(1)、選挙管理委員会(1)、作品選集選考委員会(2)	()は回数
代議員半数改選	(留任)菅野 實、倉田光春、後藤 工、渡辺正朋 (新任)植松 康、佐藤彰芳、細田洋子、三浦金作	2004 年 4 月～2006 年 3 月 2005 年 4 月～2007 年 3 月
支部長改選	(留任)近江 隆	2004 年 6 月～2006 年 5 月
常議員半数改選	(退任)石井 敏、加藤 マンパル、澤田紘次、高砂秀敏、 飯藤将之、前田匡樹、渡澤正典 (留任)小野田泰明、佐藤慎也、佐藤忠幸、出村克宣、原田和幸、 船木尚己、八巻正信 (新任)大野 晋、槻橋 修、野内英治、宮腰直幸、山田寛次 山畑信博、横山直樹	2003 年 6 月～2005 年 5 月 2004 年 6 月～2006 年 5 月 2005 年 6 月～2007 年 5 月
企画運営委員	細田洋子	2005 年 6 月～2006 年 5 月
支 部 監 事	渡辺隆一、高砂秀敏	2005 年 6 月～2006 年 5 月

支部事業

研究委員会	[部会名] [部会長] [テーマ名] 構 造 : 小野瀬順一 構造技術における新しい試み 材 料 : 金子佳生 サステナビリティ確保に向けての建築材料学教育のあり方に関する調査 研究 建築計画 : 小野田泰明 21 世紀にむけた生活環境の創造 地方計画 : 増田 聡 ・東北のまちとまちづくり ・防災まちづくり ・環境問題と中心市街地の再編 歴史意匠 : 安原盛彦 歴史的建築における空間論 環境工学 : 持田 灯 ・木質バイオマス利用 ・高齢化社会における環境工学の問題 ・都市のコンパクト化に伴う環境工学上の問題 ・東北の地域特性に根ざした都市環境計画 施 工 : 伊藤憲雄 建築現場における最新技術とその施工法について 建築デザイン教育 : 千葉政継 建築教育の充実を JABE の発足 UIA 認定の開始 を目前に大学教育をも含めたプログラムで考える 災害調査連絡会 : 源栄正人 東北地域における地震及び各種災害が発生した際の調査、広報に関わる 連絡や調整および関連事業の企画立案と支援	
支部研究助成 金による研究	サステナビリティ確保に向けての建築材料教育のあり方に関する 調査研究 材料部会(研究責任者 山田寛次)	2005 年 4 月～2006 年 3 月
支部研究報告会	2005 年度東北支部研究報告会、研究報告集第 68 号計画系・構造系 刊行 発表題 145 題	2005 年 6 月 11 日～12 日 山形県文翔館

支部主催 支部共催 イベント	<p>1. 支部主催</p> <p>1) 建築文化週間事業 仙台市内と福島支所で開催予定</p> <p>2) 第16回「東北建築作品発表会」の開催(仙台市)</p> <p>3) 第25回「東北建築賞」の選考</p> <p>4) みちのくの風2005山形 ・支部研究報告会と招待講演会 ・パネルディスカッション「景観・エネルギーとまちづくり」 ・第25回東北建築賞授賞式 ・第25回東北建築賞受賞作品展示会</p> <p>1. 支部共催</p> <p>1) 親と子の建築講座 仙台会場 = 原町まちたんけん = 地域の歴史をいかしたまちづくりを考えよう 青森会場「魅力ある街づくりを考えよう」 山形会場「やまがたレトロ館めぐり」 山形会場「コンピューターによる住宅モデル作成」</p> <p>2) 第25回東北建築賞作品展示会 仙台市、盛岡市、山形市、八戸市、秋田市、郡山市</p>	<p>2005年10月</p> <p>2005年10月1日 せんだいメディアテーク 2005年6月11日~12日 山形県文翔館</p> <p>2005年7月27日</p> <p>2005年8月20日 2005年10月2日 2005年10月23日 2005年10月~2006年3月</p>
研究部会主催	<p>1. シンポジウム</p> <p>2. その他、部会ごとに講習会・研究会・見学会などを適宜開催</p>	
表彰	<p>1. 第25回東北建築賞作品賞 作品賞6点、作品奨励賞2点、</p> <p>2. 日本建築学会設計競技支部入選者表彰3名</p>	<p>2005年6月11日 山形県文翔館 2005年5月21日 せんだいメディアテーク</p>
支所活動	<p>青森支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員協議会 ・第25回東北建築賞作品展示会：八戸市 ・親と子の建築講座「魅力ある街づくりを考えよう」：弘前市 <p>秋田支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員会 ・第34回建築学科生徒による建築設計作品コンクール：秋田市 ・第25回東北建築賞作品展示会：秋田市 <p>岩手支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第25回東北建築賞作品展示会：盛岡市 ・第32回県内工業高校生徒設計製図作品コンクール後援 ・第36回県下工業高校設計作品コンクール：盛岡市 <p>山形支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第25回東北建築賞作品展示会：山形市 ・親と子の建築講座「やまがたレトロ館めぐり」：山形市 ・親と子の建築講座「コンピューターによる住宅モデル作成」 <p>福島支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第25回東北建築賞作品展示会：郡山市 	<p>2005年10月 2005年8月20日</p> <p>2006年3月 2006年3月</p> <p>2005年9月 2006年2月 2006年2月</p> <p>2006年1月 2005年10月2日 2005年10月23日</p> <p>2006年2月</p>
刊行活動	<p>支部年報第25号発刊</p> <p>東北支部研究報告集第68号計画系・構造系発刊</p> <p>東北建築作品集(第16号)発行</p>	<p>2005年5月21日 2005年6月11日 2005年10月1日</p>

支部共通事業

講習会	鉄筋コンクリート造のひび割れ(設計施工)指針改定講習会	2006年1月
展示会	全国・大学高専卒業設計展示会 仙台市、八戸市、郡山市、山形市、本荘市	2005年6月~2006年1月
審査会	2005年度支部共通 日本建築学会設計競技 テーマ：風景の構想 - 建築をとおしての場所の発見 日本建築学会「作品選集2006」	2005年7月 2005年6月~9月

法人・賛助会員

阿部建設(株)	(株)設計集団空
伊藤組土建(株)	東北ポール(株)
大槻電設工業(株)	(株)昴設計
(株)大林組	(株)みちのく設計
(株)関・空間設計	東北ドック鉄工(株)
(株)奥村組	千田総兵衛建築事務所
鹿島建設(株)	(株)内海建築事務所
(株)久米設計	(株)蔵王建築設計事務所
(株)熊谷組	(株)都市構造研究センター
五洋建設(株)	(株)東北設計計画研究所
清水建設(株)	(株)本間利雄設計事務所+地域環(株)清水公夫研究所
仙建工業(株)	(株)エムアイティ 建築研究所
大成建設(株)	旭化成建材(株)
(株)竹中工務店	東日本旅客鉄道(株)東北工事事務所
鉄建建設(株)	東北電力(株)
戸田建設(株)	(株)NTT ファシリティーズ
(株)ユアテック	(社) 日本電設工業協会
西松建設(株)	東北空気調和衛生工事業協会
りんかい日産建設(株)	東北文化学園専門学校
(株)間組	日刊建設産業新聞社
(株)フジタ	(株)志賀設計
堀江工業(株)	(株)田村設計室
前田建設工業(株)	(株)佐藤総合計画
升川建設(株)	(株)氏家建築設計事務所
ピーエス三菱東北支店	(株)ダイテック
三菱地所設計	東北文化学園大学
(株)山下設計	(株)若松六本木設計
(株)ウンノハウス	エヌ・ティ・ティ都市開発(株)
(株)梓設計	東北設備工業(株)
(株)伊藤喜三郎建築研究所	ムツ電
東日本興業(株)	三友電設(株)
佐藤工業(株)	元旦ビューティー工業(株)
北洲ハウジング	清水公夫研究所